



普天間発展のシンボルとなった映画館

〈グランド・パレス〉

コロナ禍の影響で不況が続く中、日本映画は『鬼滅の刃』の大ヒットで明るい話題を提供してくれています。令和2年12月現在で、あの世界的名作『タイタニック』が持つ日本興行収入の記録を抜いて歴代2位になりました。

日本では、20世紀初頭に最初の映画館ができて以来、映画館は今も変わらず大衆娯楽として人気を博しています。沖縄では、1914(大正3)年に、東町の帝国館で上映が



▲オープン時のグランド・パレス
開館当時の写真、落成式は当時の宜野湾村長らが招かれ盛大に行われました。



▲普天間交差点から撮影した写真

始まりました。戦後は1948(昭和23)年から映画館ができて始め、1960(昭和35)年には120もの映画館があったほど(『沖縄まぼろし映画館』参照)、映画は昔から市民権を得ていました。それは、かつて普天間でも多くの映画館がつくられていたことからうかがえます。

左上の写真は、**普天間の三叉路近くにあったグランド・パレスという映画館です。1955(昭和30)年のクリスマスにオープンしました。**普天間は1950年代前半から区画整理事業が始まり、県道81(旧30)号線沿いは外国人を対象とした商店街として企業が誘致されました。中でも映画館の建設は、開発事業の核として位置付けられていました。

新しい街のシンボルとなったグランド・パレスは、オリオン興行(洋画)系統の映画館として開館します。座席数は370席で(シネマライカムの大きい劇場が345席)、当時としては標準型の劇場ですが、中部では最新の設備と設計が行われた施設です。今見ても、60年以上前の建物とは思えないほど近代的な設計ではないでしょうか。

グランド・パレスは開館から30年余りが過ぎた1986(昭和61)年に閉館となりました。今でもこの建物は、テナントを変えて普天満宮の門前にたたずんでいます。

(伊藤 圭)



大謝名メーヌカーの保存整備

文化課は保護係と整備係にわかれていることをご存じでしょうか?保護係は主に埋蔵文化財を対象とした保護調整や発掘調査、発掘調査に係る資料整理、有無照会等を行っております。整備係は市内に残る指定文化財の保存整備、パトロール、戦前から伝わる無形文化財の育成事業、文化財案内板や説明板の設置、地域の歴史文化遺産マップの作成、イガルー・シマ文化財教室の開催等を行っています。

そこで今月は整備係が行っている**大謝名メーヌカーの保存整備工事の様子**を紹介します。

大謝名メーヌカーは大謝名小学校の裏側に位置しています。大謝名の人々が生活用水や人生の節目に使う**神聖な水を汲んだ場所**で、現在も地域の拝所として大切にされています。湧泉の正面は大きな石柱で区画されています。湧泉の架かる水口を残して、洞穴の開口部全体を布積みと相方積みで頑丈に塞いでいます。周囲は三段の石積みで土砂崩れを防いでいます。**平成3年8月1日に市の史**

跡として文化財指定されました。また、樋(水口)と湧き水の落ちる底石にはタニコケモドキとオオシソウの2種の淡水紅藻が生育しており、こちらも市の天然記念物として文化財指定されました。

これまでも樋口や石積みの保存整備工事を受けてきた大謝名メーヌカーですが、平成26年度の豪雨によって石積み擁壁の一部が崩落しました。その後、調査、測量、整備計画の作成等を経て、今年度、石積みを修復する保存整備工事に入りました。

石積みの修復は石積みをはずすことから始まります。そして元の石をできるだけ使用しながら、新しい石と組み合わせ頑丈に積み上げます。**隙間なく積み上げるには細かな石の削りが必要で、それらは全て人力で行われ、作業は慎重に進められます。**

保存整備工事は今年中に終わる予定です。新年には復元された頑丈になった大謝名メーヌカーをぜひ見に来てください。

【問合せ】文化課 8993-4430



石積みをはずす



修復工事の様子



修復工事の様子